

総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラム開催報告

## 地域づくりフォーラム in 中野～スポーツクラブによる元気なまちづくり～

開催日時：平成19年9月11日（火） 18：30～20：30

会場：長野県中野市「中野市民会館」

厳しい残暑が続く中、夕暮れとともに心地よい涼しさと田んぼのカエルの鳴き声が響き渡る長野県中野市において、9月11日（火）に総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムが開催されました。平日にもかかわらず、地域住民82名の方々に参加いただき、中野市教育委員会教育長をはじめとした行政の方々、北信越ブロック内県体育協会、北信越ブロッククラブ育成アドバイザー、北信越ブロック地方企画班を合わせると、総勢95名の参加となりました。まず、中野市を拠点としている北信越 BC（ベースボールチャレンジ）リーグの「信濃グランセローズ」監督の木田勇氏より、「地域密着型の球団 信濃グランセローズの挑戦」というテーマでご講演いただきました。その後、情報提供として「スポーツクラブで育む ヒト・まち・コミュニティ」というテーマで、北信越ブロック地方企画班の白倉香理さんから中野市の地域特性やスポーツを取り巻く環境の分析と課題及びその課題を克服するための総合型地域スポーツクラブとはどういうものかについての情報提供、安曇野ほりがねスポーツクラブの臼井良臣さんから総合型地域スポーツクラブを設立しようとしたきっかけ及びクラブ設立に取り組んで地域が変わってきたことの情報提供をしていただきました。参加された地域住民の方々からも質問が出て、スポーツあるいはスポーツクラブによって豊かな地域を作っていこうという機運が高まったように感じます。



めんの総合型地域スポーツクラブとはどういうものかについての情報提供、安曇野ほりがねスポーツクラブの臼井良臣さんから総合型地域スポーツクラブを設立しようとしたきっかけ及びクラブ設立に取り組んで地域が変わってきたことの情報提供をしていただきました。参加された地域住民の方々からも質問が出て、スポーツあるいはスポーツクラブによって豊かな地域を作っていこうという機運が高まったように感じます。

### 1. 講演「地域密着型の球団 信濃グランセローズの挑戦」

講演者：信濃グランセローズ 監督 木田 勇 氏

まず、現在信濃グランセローズは、北信越 BC リーグにおいて3位（4チーム中）に甘んじているが、選手にはアマチュアとプロフェッショナルの違いを理解させ、プロフェッショナルとしての意識を持つように指導することにより、今シーズン残り試合を充実した内容で締めくくっていききたいという抱負が述べられた。そして、選手をプロフェッショナルなレベルの意識に高めるための具体的な木田氏の指導観について、エピソードを入れながら話が進んでいった。指導観として最も大切なことは、野球の技術を向上させることだけでなく、社会人として、大人として通用する資質を育むことを意識しているとのことであった。信濃グランセローズから NPB（プロ野球）に進



める選手はごくわずかであり、多くの選手はここ（信濃グランセローズ）での選手生活が終わってから何らかの形で収入を得ていかなければならない。そのため、たとえば企業の社長から「うちの会社にぜひ来てほしい」と誘われるような社会人としての資質を、野球を通して育てていきたいということであった。多くの選手は、プロ野球のスカウトが観ている時だけ意識して高いパフォーマンスを出そうとしているが、誰かが観ている観ていないに関わらず日々の野球に臨む意識を高める指導を行なっていることと、徐々に選手がそれを理解してきているとのことであった。「明日につながる今日」を意識させる指導や、コーチに言われて選手が動く指導ではなく、選手自らに気づかせて動かせる指導の大切さを強調されていた。Coachという言葉には、「運ぶ・導く」という意味があり、Teach「教える」とは意味が異なるため、Coachとして、選手自らに気づかせる導きが必要であるとのことであった。最後に、今年度残り試合を全力で戦うことを宣言して講演を締めくくった。

## 2. 情報提供「スポーツクラブで育む ヒト・まち・コミュニティ」

発表者：北信越ブロック地方企画班 白倉 香理さん

安曇野ほりがねスポーツクラブ 白井 良臣さん

まず白倉さんが、中野市の地域特性について年齢構成、スポーツ施設数、スポーツ施設利用状況、スポーツ少年団の実態、中学校部活動の実態をデータに基づき説明を行った。そのデータ結果から、小学生から中学生につながるスポーツ環境、子どもをかかえる女性のスポーツ環境、30代40代の男性のスポーツ環境、高齢者の健康づくり環境といった課題が、日本におけるスポーツや健康に関する実態と対比させながら抽出された。さらに、こういった課題を克服するための総合型地域スポーツクラブの提案をわかりやすく説明していただいた。いずれもパワーポイントで図や絵を入れながら、スポーツに関わる現状や総合型地域スポーツクラブについてはじめて耳にする人にも理解できるよう工夫されていた。



次に白井さんから、安曇野ほりがねスポーツクラブを設立するきっかけについて発表があった。まず、安曇野市の地域特性と社会体育の変遷、体育協会の活動状況の説明がなされた。その中で特に大きなきっかけとなったことは、「競技性の強いものばかりで、限られた人しか参加できない」というスポーツ環境を変えていくことであり、また「最初から重くしないで、軽く考え、やれる人でこじんまりはじめたら」という体育指導委員協議会でのアドバイスが設立への不安をぬぐいさってくれたということであった。多世代が楽しめる様々なスポーツプログラムを実施し、現在は、スポーツを通じた地域住民の「つながり」や「結びつき」を実感しているとのことである。かつて流行となった歌謡曲や現在の社会現象も引用しながら、「つながり」や「結びつき」といった現在のクラブの実態や白井さんの思いを楽しく（＝説得力のある言葉で）伝えていただいた。

お二人の情報提供に対し、クラブの会費・参加費について、クラブ設立組織の構成についての質問があり、情報提供及び討議が活発に行われた。

（報告：北信越ブロック地方企画班員 西原 康行）